

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

①あなたの営農形態を教えてください。

回答項目	選択人数	比率
兼業農家	57人	48%
自給的農家(自家消費が主)	33人	28%
専業農家	28人	24%
総計	118人	

②あなたの年代を教えてください。

回答項目	選択人数	比率
30歳代	3人	3%
40歳代	6人	5%
50歳代	10人	8%
60歳代	41人	34%
70歳代	47人	39%
80歳代～	13人	11%
総計	120人	

③長岡京市内で栽培している『たけのこ藪』の面積を教えてください。(※1反=10a)

回答項目	選択人数	比率
10a未満	11人	9%
10a以上20a未満	36人	30%
20a以上30a未満	24人	20%
30a以上40a未満	16人	13%
40a以上50a未満	14人	12%
50a以上	18人	15%
わからない	1人	1%
総計	120人	

④栽培している『たけのこ藪』で実施している取組を教えてください。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
土持ち	97人	80%
間伐	113人	93%
追肥	102人	84%
灌水	9人	7%
その他(→問5へ)	18人	15%
特に何もしていない	5人	4%

⑤(その他の取り組み)取り組み内容を具体的に教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)
芯止め
わら敷き
草引き
保水性改良剤の施用
微生物資材の施用
庭木の剪定枝を敷く

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

⑥今年(令和7年産)のたけのこの収穫量について、例年と比較して減少しましたか。

回答項目	選択人数	比率
かなり減少した(7割以上)	30人	25%
大きく減少した(4～6割程度)	58人	48%
やや減少した(1～3割程度)	28人	23%
例年どおり	4人	3%
総計	120人	

⑦シナチクノメイガ等による笹枯れ被害を『はじめて』確認した時期はいつ頃ですか。

回答項目	選択人数	比率
今年(令和7年)	28人	24%
去年(令和6年)	72人	61%
一昨年(令和5年)以前	11人	9%
被害は出ていない(→問25へ)	4人	3%
不明(現地確認していない)(→問25へ)	4人	3%
総計	119人	

⑧栽培している『たけのこ藪』のうち、被害を受けた面積は全体の何割程度ですか。

回答項目	選択人数	比率
大部分が被害を受けた(7割～)	66人	57%
半分程度が被害を受けた(4～6割程度)	26人	23%
一部が被害を受けた(1～3割程度)	22人	19%
その他(→問9へ)	1人	1%
総計	115人	

⑨(問8その他)被害状況について教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)
今後増えていくと思う
今年の5月、収穫が終わってから大部分の被害を受けた
今年の7月以降から被害を受けた
程度の差があるが、長岡京市全域で何かしらの被害
大原野の方でも被害が発生

⑩今年(令和7年)の笹枯れ被害発生場所を教えてください。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
開田	0人	0%
天神	13人	11%
奥海印寺	39人	32%
下海印寺	8人	7%
金ヶ原	12人	10%
浄土谷	7人	6%
今里	12人	10%
粟生	20人	17%
長法寺	9人	7%
井ノ内	24人	20%
その他長岡京市内	4人	3%

各項目集計結果

(別紙)

■自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。

■複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。

■「未回答」は選択人数から除いています。

⑪今年(令和7年)にシナチクノメイガ等の幼虫または笹枯れなどを発見した時期はいつですか。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
3月まで	7人	6%
4月頃	6人	5%
5月頃	13人	11%
6月頃	44人	36%
7月頃	52人	43%
8月頃	20人	17%
9月以降	9人	7%

⑫シナチクノメイガ等への対策のために実施した取り組みはありますか。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
㊦薬剤散布	20人	17%
①被害を受けた竹の伐採	38人	31%
㊧落ち葉や竹の皮等の清掃	27人	22%
②その他(→問19で取組内容を回答)	7人	6%
㊨何もしていない(→問20へ)	59人	49%

⑬(㊦薬剤散布)取り組みは誰が実施しましたか。

回答項目	選択人数	比率
個人で実施した	22人	79%
家族や親族と一緒に実施した	3人	11%
集落の農業者等と一緒に実施した	1人	4%
外部に作業を委託した	2人	7%
総計	28人	

⑭(㊦薬剤散布)取り組みの効果はどうでしたか。

回答項目	選択人数	比率
とても効果があった	2人	9%
少し効果があった	9人	39%
効果がなかった	4人	17%
効果は不明	8人	35%
総計	23人	

⑮(①被害を受けた竹の伐採)取り組みは誰が実施しましたか。

回答項目	選択人数	比率
家族や親族と一緒に実施した	8人	22%
外部に作業を委託した	1人	3%
個人で実施した	27人	75%
総計	36人	

⑯(①被害を受けた竹の伐採)取り組みの効果はどうでしたか。

回答項目	選択人数	比率
とても効果があった	1人	3%
少し効果があった	5人	13%
効果がなかった	6人	16%
効果は不明	26人	68%
総計	38人	

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

⑰(㊟落ち葉や竹の皮等の清掃)取り組みは誰が実施しましたか。

回答項目	選択人数	比率
家族や親族と一緒に実施した	6人	21%
外部に作業を委託した	1人	4%
個人で実施した	21人	75%
総計	28人	

⑱(㊟落ち葉や竹の皮等の清掃)取り組みの効果はどうでしたか。

回答項目	選択人数	比率
とても有効だった	2人	7%
少し効果があった	3人	11%
効果がなかった	6人	21%
効果は不明	17人	61%
総計	28人	

⑲(㊟その他の取組)具体的な取り組みの内容と効果を教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)

清掃と一部伐採
 幼虫の押し潰し
 野小屋の清掃
 すべりテープや粘着テープの貼付
 蛹のついた竹皮の焼却
 風通しが良くなるよう、多めの伐採

⑳(㊟何もしていない)理由を教えてください。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
防除の必要性を感じなかった	2人	3%
体力や体調に不安があり、作業が困難だった	32人	54%
作業する時間が確保できなかった	22人	37%
特に理由はない	4人	7%
その他(→問21へ)	19人	32%

㉑(問20何も防除の取り組みをしていない)理由を教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)

○薬剤散布について防除効果への疑問

防除効果が不明
 下から上に向けて散布しても意味がない
 散布機がない。自分の竹林だけ防除しても効果がうすい

○対策方法、被害状況、情報等の不足

どのような対策をすればよいかわからない
 全容がわからないので判断ができない
 発見時期が遅く、被害が広がってしまっていた
 被害の原因がわからなかった
 防除対策の機械、薬品についての情報等がなかった

○金銭的負担や作業負担

小規模の為、コストが収入に見合わない
 高い所への液剤散布は大変。個人では不可能に近い

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

②今年度(令和7年度)市が実施している竹林病虫害防除対策事業補助金(薬剤・噴霧器購入補助)を知っていますか。

回答項目	選択人数	比率
補助金の制度を知っており、利用した(→問25へ)	13人	12%
補助金の制度は知っているが、利用しなかった(→問23へ)	78人	70%
補助金の制度について知らなかった(→問25へ)	21人	19%

③(補助金の制度は知っているが、利用しなかった)理由を教えてください。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
薬剤散布以外の防除対策を実施したから	4人	5%
補助の対象となる物品を購入しなかったから	22人	28%
補助金の申請手続きが煩雑だったから	8人	10%
補助金額が少なかったから	18人	23%
これから申請する予定	11人	14%
防除対策を実施しなかったから	26人	33%
その他(→問24へ)	20人	26%

④(問23補助金の制度は知っているが、利用しなかった)その他の理由を教えてください。自由記述

回答項目(主要意見抜粋)
○防除効果への疑問等
自分の竹林だけ防除しても意味が薄い
薬剤散布などの防除対策の効果がどの程度か様子見している
収益性が低く、防除の労力や負担に見合うか見定めたい。
○身体的負担、健康被害の懸念等
個人が噴霧器を持っても、竹の下から噴射するのが大変
個人で防除対策をとるのは困難。地上散布の限界、ホースの延長不足、取り回し、高低差、他からの飛来
散布後の農薬が身体にかかり、健康被害が懸念される
高齢、作業人員の確保が困難
暑い気候の中でカッパ等の防除服を着る必要があり、水分や体力を奪われ体に悪い
防除作業そのものが大がかりなので、個人では実施し難い。
農薬の安全性について詳細な情報が得られなかった。
○金銭的負担や時間等の制約
噴霧器が高額のため
筍の収穫、田植等で疲労困憊で、適期に防除を実施できるか不安
機器等の保管場所が必要
兼業農家で時間的に不可
藪の立地条件等で防除できない(トラックの横付け等)

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

㉔笹枯れ被害に関し、市や府、国等を実施してほしい対応はありますか。※複数回答可。

回答項目	選択人数	比率
被害の実態調査	43人	36%
病害虫の生態調査	58人	48%
説明会等による農業者への情報提供	39人	32%
農業者と行政等による情報共有・意見交換の場の創設	22人	18%
防除に使用可能な農薬登録の拡大	28人	23%
安全で効果的な防除対策の確立(散布作業が重労働なため)	89人	74%
補助金制度の拡充(補助金額の増額)	35人	29%
補助金制度の拡充(散布作業の外部委託経費の補助)	40人	33%
補助金制度の拡充(集落が独自に取り組む防除対策への支援)	19人	16%
補助金制度の拡充(その他)	5人	4%
特になし	5人	4%
その他(→問27へ)	8人	7%

㉕(問25補助金制度の拡充(その他)について)実施してほしい内容を具体的に教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)

安価な動噴の案内、特に竹林散布に特化した性能
 過去数年の筍販売収入の平均からわりだした不足分の補充
 諸器具(発電機・誘蛾灯等)購入の補助金充実
 年度毎に状況が変わるが、制限の緩和を考えて欲しい。
 農協主体で行う広範囲な被害竹林の防除(薬剤散布等)対策の実施
 農薬散布をしても たけのこは安全である証明を広く拡散
 補助金ではなく、行政主導で対策を行って欲しい

㉖(問25その他)実施してほしい内容を具体的に教えてください。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)

市において地域ごとに薬剤散布をお願いしたい
 面的な薬剤散布
 過去の知見掘り起こし(竹研究者や篤農家)、専任研究員の専任
 空中散布(ドローンを含む)を認めてほしい
 根竹の元での防除

各項目集計結果

(別紙)

- 自由記述項目については主要意見を抜粋して掲載しています。
- 複数回答の質問は、関連した設問を除き、回答者121名からの割合を算出しています。
- 「未回答」は選択人数から除いています。

②⑧その他、ご意見等について記述してください。※自由記入。

自由記述

回答項目(主要意見抜粋)

防除方法・防除時期等について

防除の時期を通知してほしい

6月など早い時期にメイガの発生情報を流して欲しい

薬剤散布効果、散布時期、散布部位(根・葉)、復旧程度の市ホームページ等による情報提供

薬剤散布時期や方法を農業者間で共有し、地域全体で防除対策を行えるよう制度の充実を図ってほしい。

講習会・説明会の開催について

防除作業の講習会の開催して欲しい

大学の農学部教授等を招き、ノメイガの生態を知る説明会を開催してほしい

病害虫の発生状況について

放置竹林や防除をしない所有者がいるため、隣接竹林からの侵入があると思われる

近隣の竹林一帯、所有者は各集落にまたがっている

農薬噴霧について

薬剤散布は上向き噴射、散布地は斜面地も多くあり散布は重労働で個々に行うには限界

作業を行う委託業者(例えば造園業者)による散布体制を確立してほしい

散布作業の外部委託可能業者を教えてほしい

防除に特化した軽量・安価な噴霧器セット・防護服等を紹介してほしい

その他の防除手段等について

JAの外部委託(乙訓農作業受委託組合)

ドローンによる空中散布が認められるよう、国に働きかけて欲しい

ノメイガ類が竹に登らないようなテープ(粘着テープ)を開発してほしい

アンケートから情報提供

薬剤散布時期は、6月中頃～7月初めが良いと思う

疑問、質問等

ノメイガの卵の発生時期での駆除は可能か

シナチクノメイガの筍生産への影響度を知りたい

卵・幼虫・サナギ・成虫のどの段階で駆除するのが良いのか

薬剤散布は重労働のため、一度散布すれば長く効果のある薬剤はないか

その他のご意見

行政と農協が連携し、農薬の空中散布の実現や、散布作業の外部委託先の確保・斡旋などに努めてほしい

実体の早急な把握を。図面に落とし込む(色分け)現状の説明を。

発生地域全体で対策をしなければ投資効果がないと思う。費用や労力がかかり、国や府の支援対策が必要。

有機JAS認証基準より厳しい基準のお客様もあり、農薬に頼らない対策も求められる

地域一帯での防除が出来るよう、地元メーカー等と共同で提案して欲しい

対応が遅いと思う

筍栽培には大きな手間や費用がかかるのに価格が上がらず、利益はないに等しい

特産の筍や竹林を残すため、長岡京市もいろいろな対策を考えてほしい

薬剤散布の個人実施は不可能で、京だけのこが終わりを迎えてしまう。どうか早急な対策を。

来年度以降も同様の補助金制度を継続していただいて、来年度は早めの防除を行いたいと思っている

市長や府議が京都府・近畿農政局へ対策を要望いただいていることに感謝

農家のために存在するはずの農協の無関心さが気になる

対策の立案と(市、府の対策本部の存在と内容)も含め資料配布を農家組合長、農業委員会等で。

高齢化に伴い耕作放棄地が増え、自然環境の悪化が懸念されるので、行政主導で対策検討して欲しい

竹林のまわりに宅地が増えて、夜、外灯が照るので虫の集まりが増えている